

ちば里山新聞

(第39号)

編集発行 NPO 法人ちば里山センター
袖ヶ浦市長浦拓 2 号 580-148
電話 0438-62-8895
題 字 倉島 貴浩
(ワークホーム里山の仲間たち)

ちば里山新聞は千葉県からの委託事業を受け、特定非営利活動法人ちば里山センターが編集発行しています

“ボランティア養成コース” 34 名が修了

2月22日「ちば里山カレッジ」第1回卒業式

ちば里山センターが地球環境基金の助成により主催した平成 25 年度の「ちば里山カレッジ・里山ボランティア養成コース」の卒業式が、平成 26 年 2 月 22 日、千葉市きぼーる・多目的室で開催されました。式は 10 時から新井理事の司会で始まり、金親理事長が式辞の中で卒業のお祝いと今後の実際の活動でのさらなるレベルアップへの期待と激励の言葉を述べた後、卒業生一人ひとりに修了証書が手渡されました。そのあと来賓を代表して千葉県農林水産部森林課 並木課長から祝辞があり、卒業生を代表して宇津木加奈子受講生が謝辞と今後に取り組む決意を述べ式を終了しました。



金親理事長から修了証を受ける。



午後からは、講座の締めくくりとして自主研修・懇談会が行われました。新井理事のコーディネートにより「里山に生かすわが活力」のテーマで活発なグループ討議が行われました。

培った人のつながりを大切に 並木課長祝辞



千葉県農林水産部森林課 課長 並木康雄氏

第一回の卒業生となる皆さんに心からお祝いを申し上げます。里山は、防災機能なども含む多様な機能が期待されるようになっている。地域の違いや周辺環境の変化もあり、それだけに新しい発見もある。まずは安全であること、経験年数の多い人も、常に新たな気持ちで取り組む必要がある。培った人的つながりを

大事にして里山にかかわるようにしてほしい。



森林・山村多面的機能発揮対策事業の概要について

千葉県里山林保全整備推進地域協議会 事務局長 市川 高年

森林は、国土の保全、水源の涵養、生物多様性の保全、木材等林産物の供給源など多面的な機能を発揮して人々の生活に潤いと安らぎを与えるとともに地域の経済活動にも寄与しております。

これらの恩恵を永続的に享受するには森林を適正に整備・保全することが重要ですが、過疎化・高齢化・木材価格の低迷などが進み、地域住民と森林との関わりが希薄になってきています。特に集落周辺の里山林は藪化の進行や竹の侵入などにより各種機能の発揮が難しくなってきています

平成25年度からスタート

このため、林野庁では従来の木材生産を主な目的とする森林の整備と並行して集落周辺の里山林等の保全・整備を推進することとなりました。

これらの里山林の保全・整備にあつたては、地域の活力を生かすことが肝要であることから、森林所有者、地域住民等が協力して森林の有する多面的機能を発揮させるための取り組みに支援していくこととなりました。

平成25年度から「森林・山村多面的機能発揮対策事業」を新規にスタートさせました。

また、事業にあつたては、地域の実情に合わせ推進するため、各県ごとに地域協議会を設置することとなっています。

整備作業にも助成金

千葉県では「千葉県里山林保全整備推進地域協議会」（メンバー：学識経験者・県、市町村職員）を設置し活動組織（団体）、と連携を採りながら事業の推進に努めているところです。

取り組みに対する支援内容は、①荒れている里山林の整備に対して16万円/ha（雑草木の刈り払い、風倒木・枯損木の除去、植栽、機械の取り扱い講習等に要する費用及び傷害保険等）、②侵入竹の除去、竹林整備に対して38万円/ha（竹・雑草木の伐採・搬出処理に要する費用及び傷害保険）、③森林資源を活用しての地域の活性化の取り組みに対して16万円/ha（雑草木の刈り払い、炭焼き、シイタケ原木などの未利用資源の伐採、搬出、加工等に要する費用及び傷害保険）、④資機材購入費の1/2（チェーンソー、刈払い機、チップパー、薪割機など限定されたもの、デジカメ等の汎用性の機材は対象外）、⑤森林環境教育や安全技術講習会などの開催に5万円/1回（森林レクリエーション、生物多様性保全の調査、移動のためのバス借り上げ等に要する費用、傷害保険）が助成されます。⑤の事業については④の資機材購入の1/2は適用されません。

平成25年度は、10団体が12箇所での事業の支援を受けながら森林の整備、竹林の整備、観察会、安全講習会等が実施されています。

現在、平成26年度の新規の募集は終了し、平成27年度以降についての新規募集等は現在未定となっています。

当初この事業は、25～27年度の予定でしたが平成28年度まで一年間延長になりました。今後も更なる延長や同種の事業への切り替えがなされるなどの可能性がありますので随時お知らせをしていきたいと思ひます。



樹木医が語る里山の知恵

3月16日 里山ボランティア養成講座開催



樹木医

小池 英憲

鈴木 弘行

石谷 栄次

里山ボランティア養成講座が、3月16日（日）、緑化推進拠点施設（袖ヶ浦市）で開催されました。これは、豊かで美しいちばの里山の保全や利活用を担う人を育成する目的で、ちば里山センターが一般財団法人千葉県環境財団の助成を受けて主催するものです。今回は、樹木医の方々に座学やフィールド実習を行い、里山団体との交流を図り里山への理解や活動への参加を促そうとするものです。講座は9時30分に始まり、小池英憲、石谷栄治、鈴木弘行の各樹木医からの講義のあと、樹木診断、林地活用、野性鳥類の3グループに分かれてフィールド実習が行われました。里山団体との活発な質疑や意見交換があり、16時に終了しました。

里山
Iッセイ

里山とわたし

北総里山倶楽部会長 黒沢誠悦



里山活動を千葉から全国に広げよう！

我が北総里山倶楽部OBの中村君から地元紙に自分の里山活動が紹介されると連絡があった。秋田さきがけ新聞8月3日版の記事を読んだ。「秋田市河辺山内の農道沿いの杉林にヤマユリが千平方メートルに渡って咲き誇っている。高さ1メートル前後で、一株に4輪ほどの花を咲かせている。直径約20センチの白い花は風に揺られ、甘い香りが漂う。」私が訪ねた時は、杉林の整備を始めたばかりの頃で、彼は高枝切りバサミを持って盛んに枝打ちをしていた。林は、美しい広葉樹林などではなく、どこにでもある密生した杉林。枝や木が地面に積みあがり雑草が足に絡みつく。グラップルを入れて間伐、その材木を片付ける作業をよく続けたものである。積みあがった枝の隙間から水芭蕉が顔を覗かせて励ましてくれたという。間伐作業の合間に、自生していたヤマユリを株分けして増やしていったそうだ。

彼が杉林で作業をしていると、この新聞記事を読んだ方々が次々と来た。農道沿いの暖斜面で歩きやすく、高齢の方も杉林を散策したり、ご夫婦でカメラを構えたりと楽しんでくれた。

作業するとき昼食で利用する近所の食堂では、「来た車は、皆、この店で道を聞く。ついでに野菜や山菜など買ってくれるから大繁盛。感謝、感謝。100台以上来たよ。」「6月にはゲンジボタルの舞いが見られる。その頃に新聞に投稿させてください。」などと多くの感謝や励ましの言葉をいただいたという。

「東京で働いていた時、北総里山倶楽部で里山活動を体験していたからこそ、退職後に秋田に帰ってから一人で頑張れた。」と彼の言葉が添えられていた。

里山活動は広葉樹林だと思っていた私は、杉林の手入れで地域住民に愛され感謝されるようになったことを知り、驚きと感動を覚えた。

里山活動では会員の増減に一喜一憂するだけでなく、この活動の喜びを多くの人に体験してもらうことが大事なこと、これからも里山活動の大事さを千葉から全国発信しよう！と背中をトンと押された連絡であった。

北総里山倶楽部 <http://blog.livedoor.jp/beautifulskyforest/>

5月は「里山条例」にちなんだ、里山月間です。

たくさんの活動が行われます。詳しくはちば里山センターHPをご覧ください。

“里山 裏山 いのち山”

5月18日 里山シンポジウム2014 in 君津

今年度の「里山シンポジウム」全体会が、5月18日、君津市生涯学習交流センター（君津中央公民館）で開催されます。このシンポジウムは、里山の意義を確かめ理解を深めるために、いくつかの分科会が主軸になって活動を進めているものですが、里山月間である5月に「全大会」を各地域が持ち回りで開催しており、今回が11回目。主催は「里山シンポジウム実行委員会」及び「里山シンポジウム実行委員会 in 君津」。千葉県・君津市（後援）やちば里山センター（共催）、千葉県緑化推進委員会・千葉自然学校（協力）が支援しています。今回のテーマは、「里山 裏山 いのち山」。身近でかけがえのない里山の大切さやその保全について改めて考えようとしています。ケビン・ショート氏の基調講演を軸に、里山活動事例報告や分科会報告などが予定されています。

会場へのアクセスはJR内房線君津駅南口から徒歩10分、車の場合館山自動車道君津ICから10分。

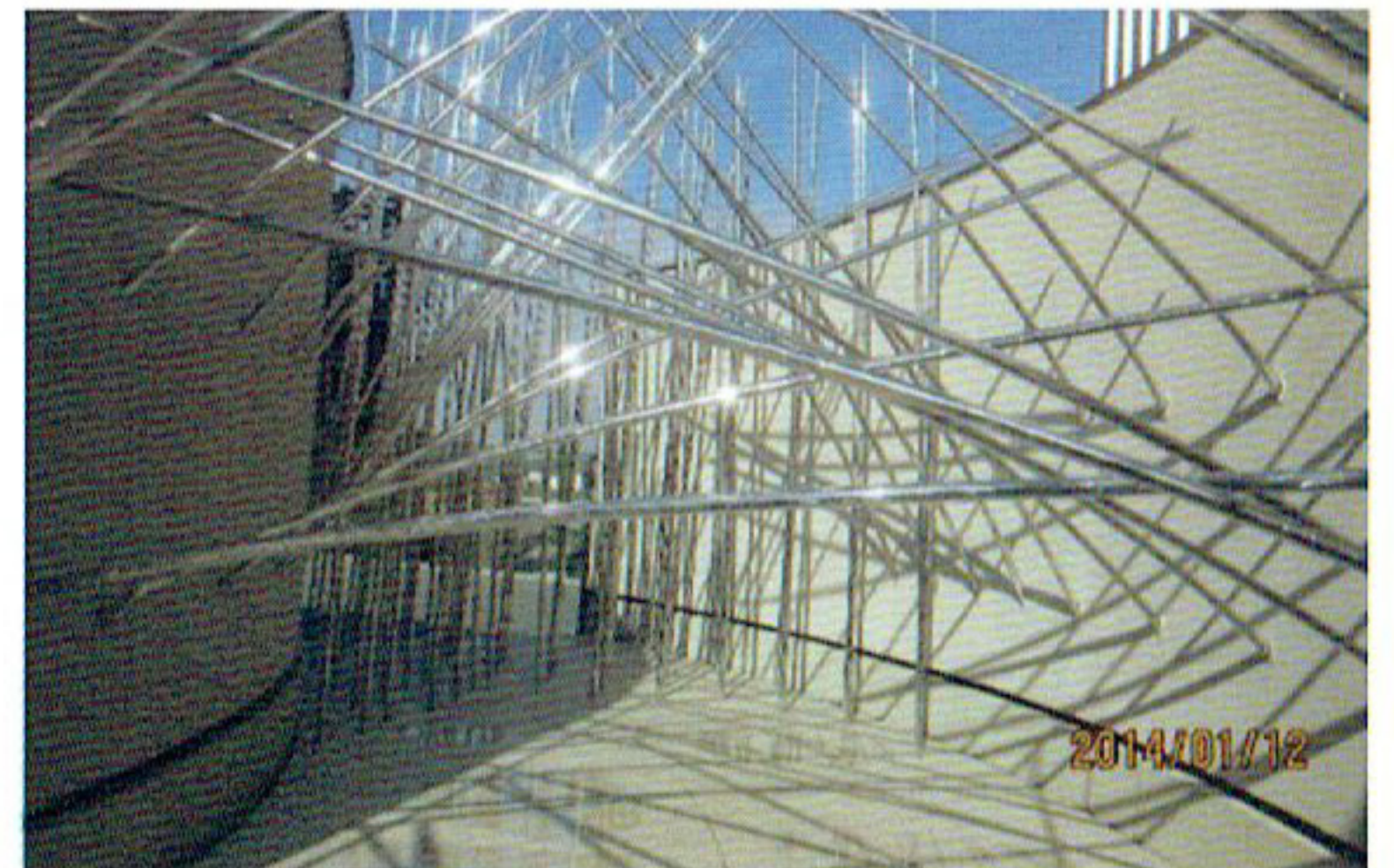


中房総国際芸術いちはらアート x ミックス

市原市で開催

3月21日～5月11日

“アートで地域おこし”を図る「いちはらアートミックス」が、3月21日から始まっています。これは、「市原市の南部地域の里山地帯を中心に、美術が持つ地域資産を顕在化する働きや多様な層の人々の協働を促す力を生かしながら、首都圏近郊都市が抱える問題を一歩ずつひらき、解決してゆくことを目指す」（案内パンフレットより）」もの。10か国を超える国と地域から数十組のアーティストが参加し、里見、月崎、上総大久保、養老溪谷、上総牛久、高



滝、月出などの各地域において様々な作品が展示されます。このほか、小湊線をつなぐ広域地域での展開があります。“里山”や“地域興し”に関心のある方、ぜひご覧になってはいかがでしょうか。期間中の支援ボランティア等の募集も行われています。（写真は湖畔美術館に展示されているアート

※ 詳細については特定非営利活動法人ちば里山センターのHPをご覧ください。※お申込み、問い合わせ先

➤ 特定非営利活動法人ちば里山センター

➤ 千葉県袖ヶ浦市長浦拓2号 580-148 ☎ 0438-62-8895 FAX 0438-62-8896

➤ <http://www.cniba-satoyama.net/> e-mail info@chiba-satoyama.net

